

討論会資料 人間は本質的に変われるのか 第一部@鯨光館

文責：討論会実行部門

本日はお忙しい中、討論会に足を運んで下さり、ありがとうございます。

討論会第一部、鯨光館で実施する討論のテーマは、

「人間は本質的に変われるのか」です。

本質的に変化するって言われても各々、どのような状態がどう変わったら本質的に変わったといえるかについての意見が違ふと思います。そこで、まずどのような状態が「本質的」な変化なのかについて熱い議論を交わしてください。

あくまで資料は「皆さんの経験や知見」です。自分が(変化できた/できなかった)

実体験や友達や親戚がこんな風になつていて驚いたことなど、昔と今の自分や周りの人など様々なことについて照らし合わせて討論してください!!

※補足＝国語辞典の定義(新明解国語辞典第7版より抜粋)

「人間」：①〔ほかの人間とともに何らかのかかわりを持ちながら社会を構成し、なにほどかの寄与をすることが期待されるものとしての〕人

②個人の性格や言動を総合してみた、他人とのかかわりの良さ・悪さ

「本質的」：本質に深くかかわると判断された様子。

「本質」：そのものの象徴となつていて、それ抜きにはその存在が考えられない大事な性質・要素。

参考資料：討論会実行部門長の意見(書くことがないので討論長の見解)

そもそも自分は変わらないと考える。変わらない部分としてあげられるのは、「勤勉でない」部分だ。私は小学一年の時にこどもちゃれんじをやっていたがまったく続かなかった。小学生を振り返ると、特にいいところのない少し変わった人だったと思える。中学生を振り返ると、そこで初めて、周りとかかわせる術を覚えた。人付き合い(人間関係)のために面倒くさいなどの感情を押し殺して、やり続けたことによって、成功したこともいくつかあった。だがレベルはあまり変わらず。けれど高校に入ったら長期休みの宿題は、最終日に徹夜するというのを繰り返して、仕事しようと思つてもまずは漫画を一冊、人間関係の一部である LINE もほぼ後回しという感じで面倒くさいという感情は残つたままで、人間の本質に当たる部分というのは変わっていないのではないのか。